



心からふるさとを愛した
先人たちによる魂の軌跡。

佐井村の歴史

豊穡の海に抱かれ、
海道による交流で生まれた
独特の祭りと風習……。
佐井村に住む人々の純粋な情熱が
過去から未来へと夢を紡ぐ。



村割施行百周年記念

志

千

里

佐井村史

History of people who deeply love Sai Village
History of the Village of Sai

Unique festivals and customs were originated through exchanges with people visiting Sai Village, with its fertile sea, via the Tsugaru Straits. Since the ancient past, people living in Sai Village have been striving to realize their dreams with pure passion and will continue to do so in the future.

[沿革] 佐井のはじまり

縄文、江戸、明治から、未来へ

聖なる森と宝の海が村の繁栄を導いてきた佐井村の歴史。
その時々を生きぬいてきた先人たちのルーツを紐解き、
その想いを受け継ぎたい……。



磯谷地区 / つきあげ
こだいす坊主

●「佐井」の地名の由来

佐井の縄文時代からの人々の営みが、発掘調査などにより証明されてきました。「サイ」という地名が付いたのはいつごろなのか諸説ありますが、有力なものは7世紀の日本書紀に書かれているものとされています。

斉明天皇5年(659)、阿倍比羅夫が北方に住む蝦夷(えみし)征伐のため越国(今の新潟県)を船で発ち、有間浜(今の深浦・鯉ヶ沢)に飽田(あきた)・淳代(のしろ)・津軽の蝦夷と渡嶋蝦夷の一派と思われる胆振鉏(イブリサエ:日本書紀では伊浮梨娑陸と表記)の蝦夷を集めて饗宴を催し、大和朝廷に協力する蝦夷の団結を固め、この有間浜を拠点に北方の渡嶋地域の完全な帰順を目指したとされています。ここにでてくる胆振鉏(イブリサエ)が「サイ」になったという説が有力です。

●縄文から中世の佐井

佐井村で確認されている埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は16箇所、海岸線に沿って断続的に点在しています。縄文時代前期から近世までの遺物が出土しています。

この中でも八幡堂遺跡にみられる縄文時代中期、糠森遺跡に代表される縄文時代後期の遺物が多くみられます。特筆すべき遺物としては、八幡堂遺跡の二重口縁土器、糠森遺跡の鐸形土製品のほか、長後沖合で発見され

た有舌尖頭器などがあります。

中世になると、下北は糠部郡宇曾利郷(ぬかのぶごおりうそりごう)と呼ばれ、安藤氏の支配を受けます。文治5年(1189)、南部光行が安藤氏を追放し、これにより幕藩体制が解体するまで下北は南部氏の支配を受けることとなります。

●海運により栄える佐井(江戸時代)

下北半島は地理的位置・潮流の好便により、諸国の廻船が集まり賑わいました。その中でも佐井は江戸・上方と蝦夷地を結ぶ海の交易・流通の要所でした。江戸・上方へ向け佐井から積み出されたものは、ヒバ材と鮑・昆布・鰯などの海産物でした。

元禄12年(1699)には、南部盛岡藩より佐井と牛滝が田名部七湊に組み入れられ、蝦夷地・西回り・東回りの寄港地となり、佐井の廻船問屋の松屋・能登屋・伊勢屋・坂井家などが繁栄をみせます。

享和3年(1803)、佐井は蝦夷地への渡航地として幕府から指定され、蝦夷地警備に向かう諸藩の役人や石川忠房、近藤重蔵、最上徳内などの幕臣が、佐井から蝦夷地へ渡っています。

徳川幕府は3代家光の時から鎖国政策を進め、外国との交易は長崎を経由することとしてきましたが、この時、



原田地区 / 神楽(平獅子)



長後地区 / 神楽(平獅子)



古佐井地区 / 祭囃子



福浦地区 / 福浦の歌舞伎 (義経千本桜)



川目地区 / 神楽 (平獅子)

北前船を通じて外国の物品が日本に流入していました。

このことを証明するものとして蝦夷錦があります。この蝦夷錦のもとを辿れば中国清王朝の官服であり、北海道・樺太アイヌのほかアムール川流域の北方先住民が清に朝貢していただいたものですが、この官服は中国の江南地方で作られた絹織物です。これが北京に運ばれアムール川を下り間宮海峡を渡って樺太に至り蝦夷地に入るという5,000kmにも及ぶ道のりを経て我が国へもたらされました。現在佐井村では8点の蝦夷錦が確認されており、「北のシルクロード」を語る上で極めて重要な絹織物です。

延享元年(1744)11月4日、佐井伊勢屋の1,200石積み北前船「多賀丸」は江戸に向け出航しましたが、途中嵐に遭い難破、黒潮にのって千島列島オンネコタン島に漂着しました。生き残った船員の三之助はロシアで日本語学校の教師をする傍ら、世界初の露日辞典の制作に取り掛かりました。しかし、三之助は亡くなり、息子のアンドレイ・タタリーノフがその遺志を受け継ぎ、天明2年(1782)ついに露日辞典「レキシコン」を完成させました。また、漂流民の中に三之助と同じく日本語を教えていた久助の息子イワン・トラベズニコフは寛政4年(1792)、ロシア使節ラックスマンの通訳として根室に随行しています。このほか、享和3年(1803)牛滝坂井家の

慶祥丸がロシアに漂着し、3年後に日本へ帰還している事例もあります。

●留山制度から明治維新 そして下北郡佐井村の成立

南部盛岡藩は佐井を含む下北一円のヒバ山を直営管理することにしました。これを留山制度といいます。税を課したり、切り出す量を制限したので仕事を失った山師は「場所」と呼ばれたニシン場(北海道)に仕事を求め、佐井の半数の人々が移り住んだといわれています。

佐井は明治元年(1868)弘前藩管轄、同2年黒羽藩、九戸県、八戸県、三戸県、斗南藩管轄、同4年斗南県第9区、同5年弘前県を経て、青森県第11区となりました。

同9年第6大区4小区、同11年下北郡に属し、明治22年市制町村制の施行により、佐井・長後両村が合併して佐井村が誕生しました。

Beginnings of the Village of Sai

Our sacred forests and sea have brought prosperity to the people of the village since the Jomon period, and will continue to do so in the future. We should follow in the footsteps of those who lived through hardships, and should pass their thoughts onto the next generation.



牛滝地区 / 手踊り (天神節)



矢越地区 / 鮭大謀網ばやし



大佐井地区 / 祭囃子

佐井村の歩み

- | | | | |
|-------|---|--------|---|
| 明治元年 | 12月 ●南部氏転封、津軽氏の支配を受ける。 | 大正 9年 | 12月 ●再び佐井小学校矢越分校を開校。 |
| 明治 2年 | 2月 ●上野国黒羽城主大関美作守当地方取締となる。三戸県と称す。 | 大正 10年 | 9月 ●古佐井、大佐井、原田に電灯がつく。 |
| 明治 3年 | 1月 ●斗南藩領となる。江刺県と改称、藩庁を田名部(むつ市)に置く。 | 大正 11年 | 12月 ●15日原田大火。(11戸焼失) |
| 明治 4年 | 7月 ●廃藩置県。 | 大正 12年 | ●佐井村消防組設置。(組頭 若山清之助氏) |
| | 8月 ●斗南県。 | | 3月 ●矢越、磯谷、福浦、牛滝に火災予防組合が組織される。 |
| | 9月 ●青森県となる。 | 大正 13年 | 4月 ●佐井小学校原田分校を設置。 |
| 明治 6年 | 3月 ●大小区制定、第6大区役所を田名部(むつ市)に置く。(佐井村、長後村、奥戸村、大間村、蛇浦村、易間村の六ヶ村をもって1小区とし、4小区と称した) | 大正 14年 | 12月 ●6代村長に、大島渉氏就任。 |
| 明治 8年 | 11月 ●明治6年小学校令が発布され、大間小学校佐井分校が開校。 | 昭和 2年 | 7月 ●株式会社下北銀行佐井出張所開業。後に株式会社第五十九銀行と合併。 |
| 明治 9年 | ●県議会議員に第6大区(現在の下北郡)から佐井村の小林和太郎氏当選する。 | 昭和 3年 | 12月 ●官制の改正により佐井営林署と改称、担当区を古佐井、大佐井、長後、牛滝の4ヶ所に設置。 |
| 明治10年 | 3月 ●佐井小学校と改称。 | 昭和 4年 | 4月 ●警防団令により佐井警防団と改称。 |
| 明治11年 | 10月 ●大小区制廃止、郡制施行。下北郡役所を田名部(むつ市)に置く。 | 昭和 5年 | 7月 ●佐井村青年団創立。 |
| 明治13年 | 1月 ●郵便取扱所設置。郵便事務を開始。 | 昭和 7年 | 11月 ●現在の校地に、佐井小学校新校舎になって移る。 |
| 明治14年 | 4月 ●佐井小学校、長後、福浦、牛滝に分教場設置。 | 昭和 8年 | 10月 ●佐井小学校焼失する。 |
| 明治16年 | 5月 ●佐井小学校校舎新築。(大瀬戸) | 昭和 9年 | 11月 ●佐井小学校校舎落成。(旧校舎) |
| 明治19年 | ●副業として養蚕が行われる。 | 昭和 10年 | ●現高橋農場(高橋利幸氏所有)に溜池を築き、18haの開田実施。 |
| 明治20年 | 6月 ●佐井郵便局と改称。(初代局長に樋口三九郎氏) | 昭和 11年 | 6月 ●2日大佐井浜町から出火。(住家14棟15戸、倉庫4棟、納屋5棟全焼) |
| 明治22年 | 4月 ●町村制により佐井村、長後村を合併、新たに佐井村となる。 | 昭和 12年 | 5月 ●佐井小学校川目分校を設置。 |
| | 6月 ●初代村長に、太田長太郎氏就任。 | 昭和 13年 | ●大佐井川尻の暗礁を基礎として、西防波堤を築く。(延長52m、幅員6m、高さ中等潮位2m) |
| | 8月 ●2代村長に、木村重功氏就任。 | 昭和 14年 | 10月 ●「仏ヶ浦」青森県天然記念物に指定。 |
| 明治23年 | ●函館大森浜との海底電信架設工事完成。 | 昭和 16年 | 11月 ●7代村長に、川村常作氏就任。 |
| | 5月 ●佐井小林区署として開庁(佐井営林署跡地) | 昭和 20年 | 11月 ●30日古佐井出火。(2棟3戸焼失、1人焼死) |
| | 5月 ●3代村長に、小島留彦氏就任。 | 昭和 21年 | 7月 ●佐井村婦人会発会する。 |
| 明治26年 | 4月 ●佐井小学校磯谷分校設置。 | 昭和 22年 | 10月 ●定期バス開通。(現在の下北交通) |
| 明治34年 | 4月 ●佐井小学校矢越分教場を設置したが、大正の初年一時閉鎖。 | 昭和 23年 | 11月 ●1日長後大火。(43棟30世帯全焼。長後分校、営林署担当区舎も類焼) |
| 明治35年 | 11月 ●再び佐井小学校校舎新築。(旧佐井消防分署跡地) | | 12月 ●8代村長に、松谷彰次氏就任。 |
| 明治36年 | 3月 ●佐井村漁業組合設立。 | | 4月 ●「仏ヶ浦」文部省名勝天然記念物に指定。 |
| 明治37年 | 4月 ●佐井小学校高等科を併置。 | | 4月 ●25日大佐井新町大火。(22棟焼失、半壊5戸) |
| 明治40年 | 11月 ●17日牛滝大火。(16戸焼失、1名焼死) | | 8月 ●15日終戦 |
| 大正 7年 | ●鳴海要吉(口語歌人)佐井小学校に赴任。 | | 2月 ●26日牛滝出火。(5棟全焼) |
| 大正 8年 | 4月 ●4代村長に、松谷賢治氏就任。 | | 4月 ●16日古佐井出火。(3戸焼失) |
| | 8月 ●5代村長に、大野精輔氏就任。機帆船が佐井～青森を就航する。(奥佐運輸株式会社) | | 2月 ●磯谷に電灯がつく。 |
| | | | 4月 ●佐井中学校創立。磯谷、長後、福浦、牛滝に分校を設置。 |
| | | | 10月 ●川目、矢越に電灯がつく。 |
| | | | ●村長公選が行われ、伊勢忠次郎氏当選。9代村長に就任。 |
| | | | 2月 ●佐井村農業協同組合設立。 |



佐井村消防組・古佐井橋にて(大正11年)



佐井小学校初の修学旅行(大正13年)



佐井八幡宮での議会(明治23年)



明治中期16才と18才の女性

昭和24年
昭和25年
昭和26年

- 5月 ●長後に電灯がつく。
- 10月 ●消防組織法により、佐井村消防団と改称。
●野平開拓者入植。
- 4月 ●佐井中学校校舎現校地に着工。(第1期工事)
- 4月 ●ひまわり学園(保育園)開設。
- 5月 ●9日原田出火。(3戸焼失)日室工業株式会社佐井営業所鉱石採掘始める。

昭和28年
昭和29年

- 7月 ●佐井漁港(第1種)県費支弁港に編入。
- 12月 ●佐井中学校校舎完成。
●佐井村土地改良区設立。105haの開田計画に着工。
- 4月 ●佐井中学校、磯谷、福浦、牛滝分校が独立校となる。
- 5月 ●福浦、牛滝に電灯がつく。

昭和30年
昭和31年

- 10月 ●長後分校が独立校となる。
- 5月 ●10代村長に、渡辺幸定氏就任。
●佐井より磯谷まで小型自動車道開通する。
大間～川内線(川目經由)着工。

昭和32年

- 水田85ha完成。(計画105ha)
- 矢越、磯谷、簡易水道布設。
- 7月 ●仏ヶ浦に、大町桂月歌碑建立。
- 10月 ●青森銀行佐井支店閉店。
●日室鉱業株式会社佐井営業所閉鎖。

昭和33年
昭和34年

- 2月 ●2日大佐井仲町出火。(3棟全焼)
- 6月 ●佐井海岸林道(磯谷～牛滝)着工。
●下北信用金庫佐井支店開設。

昭和36年

- 10月 ●木彫十一面観音立像が、青森県重要文化財に指定。
- 11月 ●牛滝へき地出張診療所設置。
- 12月 ●佐井中学校野鳥観察記録が、文部大臣賞を受賞。
●福浦簡易水道布設。

昭和37年

- 2月 ●三上剛太郎氏が佐井村名誉村民に決定。
- 7月 ●鍵掛岩に、鳴海要吉文学碑建立。
- 10月 ●佐井漁港の種類第1種を第4種に昇格。
●佐井(大佐井、古佐井)簡易水道布設。

昭和38年

- 7月 ●弁天島を中心に第4種漁港起工式を実施。
●川目簡易水道布設。
- 8月 ●第1回村民大運動会実施。
- 12月 ●野平に電灯がつく。

昭和39年
昭和40年

- 佐井簡易水道(原田)拡張工事。
- 1月 ●福浦へき地出張診療所設置。
- 3月 ●磯谷、牛滝漁港を、県費支弁港に編入。
- 6月 ●助役に、宮川年晴氏就任。
- 3月 ●矢越漁港県費支弁港に編入。

昭和41年

昭和42年

- 牛滝簡易水道布設。
- 村営火葬場新設。
- 長後へき地出張診療所設置。
- 山村振興地域に指定される。
- 佐井村4漁協合併により新発足。

- 6月 ●佐井中学校特別教室完成。
- 4月 ●村長選で渡辺幸定氏4選。
- 11月 ●佐井海岸林道(磯谷～牛滝)竣工開通。
●長後簡易水道布設。
●歯科診療所設置。
●有線放送(トランペット方式)全村設置。
●村道(川目～磯谷線)改良工事着工。

昭和43年

- 5月 ●原田小、佐井中学校給食開始。
- 8月 ●佐井村全域に集中豪雨。「災害救助法」発動。
- 10月 ●教育長に、石澤遵二氏就任。
- 11月 ●カモシカライン開通。
- 12月 ●長後漁港第1期工事完了。

昭和44年

- 6月 ●佐井村立診療所開設。
- 7月 ●国定公園「仏ヶ浦」記念切手発行。
- 8月 ●台風9号のため、佐井村全域に「災害救助法」発動。
大佐井橋崩落。

昭和45年

- 10月 ●漁業指導取締船「さい丸」進水。
- 1月 ●集中豪雨「台風坊主」のため、大佐井、古佐井、福浦牛滝被害。
- 6月 ●国土調査始まる。
- 9月 ●大佐井橋かけ替工事着工。

昭和46年

- 10月 ●「全国へき地教育研究大会」佐井小学校で開催。
●NHK、RABテレビ中継放送局開局。
- 4月 ●村立診療所、歯科診療所、へき地出張診療所が、下北医療センターに切り替え。
●村長選で松谷清治氏当選。11代村長に就任。
●村誌上巻発行。
- 9月 ●振興センター、庁舎着工。

昭和47年

- 10月 ●古佐井大町線が村道で初めて舗装。
- 3月 ●交通安全協会支部結成。
- 4月 ●70歳以上の老人医療10割給付。
●商工会館完成。
- 6月 ●下北地域広域行政一部事務組合佐井消防分署発足。
- 7月 ●村章、村旗制定。
- 9月 ●村誌下巻発行。(完結)
- 10月 ●佐井村振興センター、役場庁舎完成。



佐井漁港(明治中期)



磯谷の街並み(昭和30年代)



青年学級連絡会 佐井・原田・矢越(昭和26年)



鯛漁・一本網鯛岡せ漁法(昭和30年代まで)



総ヒバ造りの佐井小学校(昭和2年)

佐井村の歩み

昭和48年

- 村道川磯線完成。
- 2月 ●防犯協会支部結成。
- 9月 ●牛滝集会所完成。
- 11月 ●部落集団電話374個設置される。
- 12月 ●低気圧(高潮)水防活動中、横浜輝光氏死亡。
沿岸漁船40隻小中破の被害。

昭和49年

- 2月 ●佐井小学校創立100周年。
●婦人会結成30周年
- 3月 ●廃棄物処理施設(6トン焼却炉)完成。
- 4月 ●佐井小学校矢越、川目分校廃校になる。
- 6月 ●佐井～磯谷間バス(下北交通)開通。
- 8月 ●消防タンク車購入。
- 10月 ●管内全域ダイヤル直通電話となる。

昭和50年

- 3月 ●北海道南茅部町と姉妹町村締結。
- 4月 ●松谷清治氏、村長無競争当選。
- 7月 ●青森県における大雨災害のため、全域に「災害救助法」発動される。古佐井橋崩落、家屋全壊2戸、半壊3戸、床上浸水157戸、床下浸水256戸、16億円の被害を受ける。
- 9月 ●防災集団移転のため、矢越地区13戸、中磯谷地区7戸、糠森地区に集団移転決定。
- 10月 ●収入役に、若山季三郎氏就任。
- 12月 ●福浦地区生活改善センター完成。
●国定公園「仏ヶ浦」海中公園に指定。

昭和51年

- 5月 ●文化財愛護モデル市町村に指定。
- 10月 ●道路工事現場で土砂崩れ、3人死亡。
- 11月 ●牛滝小中学校校舎完成。(鉄骨造2階建、1,037㎡)
- 12月 ●縫道石山・縫道石の「オオウラヒダイワタケ」天然記念物に指定される。

昭和52年

- 4月 ●佐井中学校文部省の体力づくり校に指定。
●長後沖で磯船遭難、親子2人死亡。
- 7月 ●第9回県消防操法大会小型ポンプ操法の部で、第5分団準優勝。
- 10月 ●佐井消防分署に救急車が配備される。
●川目地区生活改善センター完成。
●長後地区生活改善センター完成。

昭和53年

- 2月 ●佐井村婦人労務センター業務開始。
- 5月 ●北海道と本州を結ぶ送電線の海底ケーブル敷設工事始まる。
●コウナゴ漁不漁。水揚げ平年の1割台に。
- 6月 ●佐井漁港開港式。
- 7月 ●長後川災害復旧工事着工。(延長75m)

昭和54年

- 9月 ●矢越地区生活改善センター完成。
- 11月 ●石澤遵二教育長、出張先で急死。
- 12月 ●アワビ稚貝中間育成施設、水産物処理加工施設完成。
- 2月 ●佐井村防犯指導隊誕生。
- 3月 ●村道大町線舗装される。(延長565m)
●佐井漁協牛滝支所に水産物荷捌施設完成。
●長後小中学校新校舎、体育館完成。
- 4月 ●村長選で松谷清治氏が3選。
- 5月 ●助役に、岩尾憲二郎氏就任。
- 6月 ●教育長に、川畑栄一氏就任。
●交通事故死ゼロ2,500日達成。

昭和55年

- 7月 ●佐井村交通安全母の会が結成される。
- 10月 ●佐井地区簡易水道増補改良工事着手。
- 12月 ●佐井村農業研修センター完成。
●原田地区生活改善センター完成。
- 3月 ●防災無線放送施設が整備される。
- 4月 ●佐井診療所新築完成。
●佐井小学校文部省の体力づくり推進指定校となる。
- 5月 ●古佐井山国有林37林班で原野火災発生。(2.48ha焼失)
- 7月 ●交通事故死ゼロ3,000日達成。
- 8月 ●福浦橋かけ替工事着手。(延長19.7m幅員5m)
- 10月 ●集団操業指導船「さい丸」建造される。
- 12月 ●原田小学校新校舎完成。
●野平地区全戸が川内町に移転。

昭和56年

- 2月 ●牛滝地区で官民一体となったモデル除排雪を実施。
- 5月 ●古佐井山浄水場完成。
- 9月 ●原田小学校屋内体育館完成。
- 10月 ●佐井中学校が全国保健体育優良校として表彰を受ける。
- 11月 ●福浦少年消防クラブが結成される。
- 12月 ●佐井中学校屋内体育館完成。

昭和57年

- 1月 ●福浦、牛滝地区に除雪機械を配備。
- 3月 ●不焼物理め立て処理施設完成。
- 5月 ●県内最長の交通事故死ゼロ10年達成。
- 7月 ●福浦中学校、青森県中学校バレーボール選手権大会で優勝。
- 8月 ●県道大間・脇野沢・川内線が国道(338号線)に昇格。
●村道原田山線改良工事着手。
- 10月 ●佐井村防災資材備蓄センター完成。
●佐井婦人クラブ(婦人スポーツの集い)あすを拓くあすなる県民運動最優秀賞受賞。



ガラス箱でのそぎ鮎を引っ掛ける



長後川(昭和39年)



海岸林道開通式・磯谷(昭和42年)



旧消防分署(昭和50年代)



磯谷入口岩崖の洞穴(昭和40年)

昭和58年

- 11月 ●佐井漁協福浦支所に水産物荷捌施設完成。
- 12月 ●松谷清治村長、全国町村長大会へ上京中に急死。
- 1月 ●村長選挙で石澤多佳樹氏当選。12代村長に就任。
●大佐井糠森地区で住宅火災発生。中学生1人焼死。
- 2月 ●川目婦人消防協力隊、東京都日消会館で行われた日本消防協会定例表彰式で、表彰旗を受ける。
- 3月 ●品田素一教育委員長死去。
- 4月 ●教育委員長に、竹内勇吉氏就任。
●交通事故死ゼロ4,000日達成。
- 5月 ●日本海中部地震発生。津波発生したが被害なし。
- 6月 ●助役に、松林薫氏就任。
- 10月 ●交通事故により3人死傷。交通事故死ゼロの記録4,181日でストップ。

昭和59年

- 11月 ●福浦地区漁具漁網共同作業施設完成。
- 1月 ●近年にない大雪に見舞われ、豪雪災害対策本部が設置され、官民総出で除排雪する。
●佐井村の海岸一帯に重油が漂着し、貝藻類に被害を受ける。
- 5月 ●山村広場開園。桜、つつじなど700本を記念植樹する。
- 6月 ●シートベルト着用村宣言。
- 7月 ●「福浦の歌舞伎」青森県無形民俗文化財に指定される。
- 9月 ●佐井漁協でヒラメの中間育成を開始。
●佐井村村民憲章並びに村の花・木・鳥を制定。

昭和60年

- 2月 ●収入役若山季三郎氏死去。
●中国残留孤児の丁彩栄(品田静子)さん45年ぶりに古里に帰る。
●佐井村消防団、日本消防協会定例表彰式で優良消防団として表彰旗を受ける。
- 4月 ●「ラブリーさい」販売事業スタート。
- 6月 ●古佐井山国有林で火災発生。28.8haを焼失。
- 10月 ●川目、矢越地区に健康広場整備。

昭和61年

- 4月 ●過疎地域に追加指定を受ける。佐井村過疎地域振興計画を策定。
- 7月 ●交通事故死ゼロ1,000日達成。
- 10月 ●老人保健事務電算処理稼働。
●川目地区林産加工センター完成。
- 11月 ●むらおこレシンポジウムを開催。
- 12月 ●村長選挙で東出昇氏当選。13代村長に就任。

昭和62年

- 4月 ●東京西部百貨店主催全国101村展で、佐井漁協の甘塩うにグランプリ受賞。
- 6月 ●佐井小学校校舎新築完成。

昭和63年

- 収入役に西谷豊彦氏就任。
- 佐井～青森間を2時間10分で結ぶ、大型高速旅客船「ほくと」就航。
- 7月 ●磯谷地区漁民研修センター完成。
- 8月 ●台風12号による強風と高潮で、漁業を中心に大打撃を受ける。(漁船大破8隻、中破3隻、小破18隻、田33.7ha、畑12ha)
- 9月 ●佐井消防分署にタンク車配置。
- 10月 ●牛滝地区水産物処理加工場完成。
●佐井小学校が第32回学研教育賞受賞。
- 11月 ●青森県水産品評会で、佐井漁協わかめ芯セットが農林水産大臣賞受賞。
- 12月 ●交通事故死ゼロ1,500日達成。
- 4月 ●「福浦の歌舞伎」伝承百周年記念式典。
●矢越地区から牛滝地区にかけて、海岸線約20キロメートルに重油漂着。海藻や定置網に被害を受ける。
- 8月 ●青森県東部海区漁業調整委員会委員一般選挙で、若山弥一郎氏無投票当選。
- 9月 ●佐井中学校卓球部(男子団体)全国大会へ出場。
- 10月 ●佐井村の保健事業推進に対し厚生大臣から表彰される。
- 11月 ●佐井小学校落成記念式典。
●下北二郎さん(本名=若山彰)「あばれ海峡」でキングレコードよりデビュー。

昭和64年

- 12月 ●佐井郵便局が新築移転。
- 1月 ●8日「平成」に改元。
- 3月 ●誘致企業第1号「レディスファッション佐井株式会社」創業開始。
●誘致企業「豆一製菓(株)佐井工場」創業開始。
●福浦少年消防クラブが、特別優良クラブとして全国表彰を受ける。

平成元年

- 4月 ●交通事故死ゼロ2,000日達成。
- 7月 ●助役に島野満義氏就任。
●佐井漁港に壁画が描かれる。
- 12月 ●牛滝バイパス一部開通。
●教育委員長に、田名部武勇氏就任。
- 1月 ●潮騒橋が完成。
- 3月 ●村制施行100周年記念式典。
●津軽海峡文化館(アルサス)竣工記念式典。
●佐井音頭、佐井賛歌「追憶」を制作発表。
●タイムカプセル「21世紀への夢」を、箭根森八幡宮境内に埋設。

平成2年



豪雨災害・仲町通りを舟で救助活動(昭和50年)



佐井小学校旧校舎



「志在千里」藩政時代境界碑(平成元年11月24日建立)



佐井村100周年記念(平成元年9月)



佐井村の歩み

平成 3年

- 5月 ●本州北限の博物館「佐井村海峡ミュージアム」がオープン。
- 8月 ●むらおこし企画酒「海峡浪漫」発表会。
●交通事故死ゼロ2,500日達成。
- 12月 ●村長選挙で石澤多佳樹氏当選。14代村長に就任。
- 1月 ●誘致企業「株式会社北進機工」立地協定調印式。
- 3月 ●佐井村消防団が消防庁長官表彰旗を受賞。
●森林体験館及びフォーレストパーク完成。
●福浦地区に健康広場整備。
- 4月 ●社会福祉法人佐井村社会福祉協議会が設立。
●「(株)北進機工」創業開始。
- 5月 ●山崎笑子さん、四十六年ぶりにサハリンから一時帰国。
- 7月 ●牛滝バイパス全面完成。
- 8月 ●ステッキ体操を発表。
- 9月 ●全国交通安全キャラバン隊が来村。
- 10月 ●佐井村保健協力が全国地区衛生組織連合会から表彰される。
- 11月 ●教育委員長に、野村義勝氏就任。教育長に、田名部武勇氏就任。
●「ラブリーさい」販売事業協議会が、国土庁が主催する「地域づくり全国交流会議」において、全国地域づくり推進協議会長賞、北海道東北開発公庫総裁賞を受賞。

平成 4年

- 1月 ●交通事故死ゼロ3,000日達成。
- 3月 ●細間で林野火災発生。森林60㎡焼失。
●佐井営林署が「森林経営センター」に改称。
- 4月 ●フォーレストパーク内「森林体験館」全面オープン。
●福浦漁港関連連道開通。「道中橋」の渡り初め行われる。
●緊急通報システム「福祉安心電話」の設置開始。
- 5月 ●願掛公園内に「ケビンハウス」(5棟)オープン。
●カレントが工場立地協定に調印。
- 6月 ●川目地区に野菜の無人市開設。
- 7月 ●古佐井地区に共済会館完成。
●新種のじゃがいも「キタアカリ」の販売開始。
●牛滝地区と立教大学の交流30年を迎える。
- 8月 ●高齢者生活福祉センター起工式。
- 9月 ●郵便局での住民票等交付申請の郵送サービス開始。
- 10月 ●交通事故死ゼロ9年を達成、県知事より表彰を受ける。
●教育長に、三戸重一氏就任。
- 11月 ●原田で火災発生。作業小屋を全焼。

平成 5年

- 1月 ●古佐井で火災発生。住宅1棟を半焼。

平成 6年

- 2月 ●日本テレビ放送網株式会社「24時間テレビチャリティー委員会事務局」より入浴乾燥車「あかしあ号」贈られる。
- 4月 ●高齢者生活福祉センター「あすなる」オープン。
●大佐井地区で火災発生。住宅兼事務所を全焼。
- 5月 ●村制施行百周年記念写真集「村のあゆみ」発刊。
●交通事故死ゼロ3,500日達成。
- 7月 ●北海道南西沖を震源とする大地震発生。佐井村は被害なし。
●佐井村農業委員会委員選挙無投票。
- 8月 ●牛滝で火災発生。漁船8隻と作業小屋5棟全焼。
- 9月 ●青森県豊かな海づくり大会が佐井漁港を会場に開催。
●佐井村保健協力が県知事より表彰を受ける。
- 10月 ●交通事故死ゼロ10年を達成、県知事より表彰を受ける。
- 1月 ●古佐井地区でボヤ発生。木堀、立ち木を焼く。
- 3月 ●助役に島野満義氏就任。
- 4月 ●田中みやさん(磯谷)100歳で村より顕彰状を贈られる。
●福浦で火災発生。住宅1棟を全焼また一部分焼。
- 5月 ●原田小学校で青少年赤十字登録式が行われる。
- 6月 ●「佐井の祭り」姉妹町の南茅部町「ひろめ船祭り」に特別参加。
●佐井小学校で青少年赤十字登録式が行われる。
- 10月 ●釧路沖を震源とする大地震発生。佐井村は被害なし。
●第36回健康・体力づくり運動推進全国大会で佐井村が総務庁長官賞を受賞。
●佐井村保健協力が地域における保健水準の向上に寄与したことに対し、厚生大臣から表彰される。
●交通事故死ゼロ4,000日達成。
●交通死亡事故ゼロ11年を達成、県知事より表彰を受ける。

平成 7年

- 12月 ●村長選挙で東上昇氏当選。第15代村長に就任。
- 3月 ●「村おこし21世紀シンポジウム」を開催。
●大佐井地区で火災発生。工場を半焼。
- 4月 ●助役に葛西崇氏、収入役に大嶋拓造氏就任。
●交通事故死ゼロ4,182日(1983年10月まで)の記録を更新。
- 5月 ●矢越地区で火災発生。作業小屋半焼。
●「こうなご」が17年ぶりの大漁。浜を賑わす。
●八幡堂遺跡発掘調査行われる。



健康づくりフェスティバル(平成元年)



村民体育大会(平成元年)



郷土芸能発表大会(平成2年)



成人式(平成2年)

平成 8年

- 8月 ●赤十字の里づくり検討委員会発足。
●三上剛太郎物語出版調査研究会発足。
●大佐井山崎商店横から佐井診療所までの県道がシルバーゾーンに指定される。
- 9月 ●箭根森八幡宮の祭典、元禄9年から数えて300年を迎える。
- 10月 ●佐井村が保健文化賞を受賞。
●佐井村斎場「蓮精苑」完成。
●県道カモシカラインで車両事故による火災発生。車両1台全損。
●牛滝新明宮が新築落成。
●交通死亡事故ゼロ12年を達成、県知事より表彰を受ける。
- 12月 ●アルサス横の公園の名称が「しおさい公園」に決まる。
- 2月 ●交通事故死ゼロ4,500日達成。
●佐井中学校新校舎完成。
- 3月 ●佐井村行政改革大綱が策定される。
●仏ヶ浦海上観光(株)と佐井定期観光(株)との間で観光船共同運航の調印行われる。
●佐井中学校新校舎完成に伴い旧校舎解体。
●教育委員長に内藤清美氏就任。
- 4月 ●在宅介護支援センター開設。
●牛滝地区交流促進センターオープン。
- 7月 ●佐井～川目間に下北交通(株)の路線バス運行。
●県内初のクライアントサーバによる総合行政システム(住民票発行等)が稼働。
- 8月 ●佐井中道地区で交通事故死発生、交通事故死ゼロ4,685日でストップ。
- 10月 ●アルサスで木村守男知事とのふれあい談義が開催される。
●大佐井地区で火災発生。住宅1棟全焼。非住宅3棟全焼、1棟半焼等。
- 11月 ●佐井小学校優良PTA文部大臣賞受賞。
- 12月 ●佐井警察官駐在所が新築。

平成 9年

- 1月 ●中道地区で温泉ボーリング工事掘削開始。
●福浦小中学校旧校舎お別れ会。
- 3月 ●福浦地区に信号機設置。
●三上剛太郎物語「よみがえれ北の輝き」発刊。
- 4月 ●川目地区に佐井村消防団第9分団が結成される。
- 5月 ●長後地区路線バス開通。
- 6月 ●アルサス横に手づくりマーケットがオープン。
- 10月 ●牛滝地区下水道供用開始。

平成10年

- 11月 ●佐井中学校校舎落成式並びに創立50周年式典。
●佐井港に灯台が設置。
- 12月 ●福浦芸能保存会東奥賞受賞。
- 2月 ●福浦小中学校新校舎完成。
- 3月 ●「ひるがえれ赤十字の旗」三上剛太郎物語アニメ完成。
●佐井村交通安全に関する条例を制定。
- 5月 ●助役に奥本好勝氏就任。
●第15回全国一斉ウォークラリー大会が佐井会場で開催される。
- 10月 ●福浦小中学校屋内体育館完成。
- 11月 ●佐井漁港臨港道路起工式。
●多賀丸漂流記念碑除幕式。
●佐井村保健協力が厚生大臣表彰受賞。
- 12月 ●村長選挙で東出昇氏が3選。

平成11年

- 1月 ●佐井の山車行事(箭根森八幡宮例祭、矢越八幡宮例祭)が県無形民俗文化財に指定される。
- 3月 ●佐井消防分署に高規格救急車配置。
●古佐井大町地区に村営住宅が完成。
- 4月 ●「佐井村と大間原子力発電所との共存共栄に係わる協定書及び附帯覚書」の調印式。
●交通事故死ゼロ500日達成、県警察本部長より表彰を受ける。
●佐井村に新しい商店街、潮風協同組合が設立される。
- 5月 ●元NHKアナウンサーの鈴木健二氏による講演会がアルサスで開催される。
- 7月 ●収入役に辻忠義氏就任。
- 8月 ●佐井村交通安全母の会が結成20年を迎え、記念イベント「交通安全フェスティバル」が開催される。
- 11月 ●福浦地区「歌舞伎の館」落成式。
●福浦地区にゲートボール場が完成。
●アルサスで木村守男知事とのふれあいトークが開催される。

平成12年

- 4月 ●新観光船「サイライト」就航。
- 8月 ●大佐井地区に村営住宅完成。
- 9月 ●交通事故死ゼロ1,000日達成、県警察本部長より表彰を受ける。
- 10月 ●佐井漁港内でクロソイ稚魚放流式が行われる。
●「福浦芸能保存会」があおぎん賞受賞。
- 11月 ●牛滝漁港「人工地盤」が完成。
- 12月 ●教育長に奥本昭典氏就任。



がんかけまつり(平成12年)



ラプリーさい
放送式
(平成13年)



植樹祭(平成12年)

クロソイ
放流事業
(平成13年)



消防団出初式(平成13年)

佐井村の歩み

平成13年

- 交通死亡事故ゼロ3年の知事表彰を受ける。
- 商工会館が移転新築。
- 2月 ●黒岩地区で住宅火災発生。1人焼死。
- 福浦の歌舞伎モニュメント除幕式。
- 3月 ●「第3次佐井村総合計画」が策定される。
- 4月 ●村長選挙で太田健一氏初当選。第16代村長に就任。
- 5月 ●下北信用金庫佐井支店が移転新築。
- 6月 ●「仏ヶ浦裂織り」が青森県伝統工芸品の指定を受ける。
- 7月 ●福浦地区下水道供用開始。
- 山本まつさん(古佐井)100歳で村より表彰状が贈られる。
- 8月 ●佐井森林経営センターが大間森林事務所に統合される。
- 9月 ●長後小中学校が「コカ・コーラ環境教育奨励賞」受賞。
- 原田地区に千金温泉共同浴場がオープン。
- 12月 ●助役に奥本好勝氏就任。

平成14年

- 1月 ●交通事故死ゼロ1,500日達成、県警察本部長より表彰を受ける。
- ゴミ焼却場廃止。
- 教育委員長に吉田眞一氏就任。
- 4月 ●佐井村ホームページが開設される。
- 5月 ●むつ下北地域市町村合併共同研究会発足。
- 8月 ●国道338号「磯谷～長後間」で、長雨による地すべりのため道路が決壊。
- 9月 ●交通安全全国キャラバン隊が11年ぶりに来村。
- 佐井村食生活改善推進協議会が厚生労働大臣賞を受賞。
- 開かれた議会の取り組みの一環として、初の夜間議会が開催される。
- 11月 ●佐井村市町村合併懇話会発足。
- 第1回おさかなまつりが開催される。
- 長後地区下水道供用開始。
- 12月 ●新しいごみ処理施設アックス・グリーン(むつ市)の稼働により、村ごみ焼却場が閉鎖。
- 指定ごみ袋の使用開始。

平成15年

- 1月 ●教育委員長に松谷多可志氏就任。
- 2月 ●福浦の歌舞伎上演実行委員会が第15回あおもり活性化大賞奨励賞を受賞。
- 不燃物埋立最終処分場が閉鎖。
- 3月 ●仏ヶ浦駐車帯が完成。
- 4月 ●むつ下北地域任意合併協議会が設立される。
- 5月 ●交通事故死ゼロ2,000日達成、県警察本部長より

平成16年

- 表彰を受ける。
- 10月 ●市町村合併課題に向け、住民が「まちづくり」について話し合う「わがまちづくり委員会」が発足。
- 佐井漁港臨港道路(しおさいロード)開通。
- むつ下北地域合併協議会(法定協議会)が設立される。
- 3月 ●佐井村土地改良区が解散。
- 4月 ●三上剛太郎の生家が佐井村有形民俗文化財に指定される。
- 6月 ●むつ下北地域合併協議会から離脱。
- 8月 ●佐井村交通安全母の会が結成25年を迎える。
- 9月 ●三上家から佐井村に三上剛太郎の生家が寄贈される。
- 村内全地区で初めて大規模な防災訓練が実施される。
- 10月 ●交通事故死ゼロ2,500日達成、県警本部長より表彰を受ける。

平成17年

- 11月 ●北海道南茅部町が函館市と合併するため、自治体としての最後の姉妹町村交流会が開催される。
- 台風18号による強風で福浦地区をはじめ村内各地区で住家、非住家、磯舟等に大きな被害を受ける。
- 1月 ●教育長に辻忠義氏就任。
- 2月 ●北通り3町村議会議員で組織する3町村合併検討研究会が設置される。
- 3月 ●川内町、大畑町、脇野沢村がむつ市に編入。
- 北通り3町村市町村合併共同研究会が設置される。
- 4月 ●磯谷地区防災公園が供用開始。
- 村長選挙で太田健一氏が2選。
- ふるさと林道大佐井川添線が供用開始。
- 6月 ●北通り3町村合併協議会(法定協議会)が設置される。
- 教育委員長に内藤司氏就任。
- 9月 ●佐井中学校吹奏楽部東北大会へ出場。
- 10月 ●磯谷地区下水道供用開始。
- 原田小学校開校式。

平成18年

- 11月 ●佐井村過疎地有償運送(ボランティア輸送)がスタート。
- 長後小中学校開校式。
- グループホームさい荘が開設される。
- 12月 ●交通事故死ゼロ8年を達成、県警本部長より表彰を受ける。
- 「三上剛太郎生家」が補修及び復元される。
- 1月 ●佐井～青森間を結ぶ離島航路が下北汽船(株)から「シライン(株)」に譲渡される。
- 2月 ●交通事故死ゼロ3,000日達成。大間警察署長より表彰を受ける。



青函ヨットレース(平成14年)



おさかなまつり(平成14年)



お祭りパレード(平成14年)



下北消防30周年(平成14年)



消防団観閲式(平成14年)

平成19年

- 3月 ●日本損害保険協会より軽消防自動車が寄贈される。
●磯谷小中学校閉校式。
●佐井村立原田小学校、佐井村立磯谷小中学校、佐井村立長後小中学校閉校。
- 4月 ●「公の施設」の指定管理者制度が始まる。
- 5月 ●北通り3町村合併協議会(法定協議会)が解散。
- 6月 ●「第1回ウニまつり」が開催される。
- 12月 ●交通死亡事故ゼロ9年を達成、県知事より表彰を受ける。

平成22年

- 教育委員長に岡本良夫氏就任。
- 2月 ●「第1回佐井村むらづくり基本条例案検討委員会」が開催される。
- 4月 ●矢越、大佐井地区下水道供用開始。
●佐井村浄化センター(下水道終末処理場)がオープン。
●「三上剛太郎生家」看板除幕式。
- 5月 ●各地区で「佐井村むらづくり基本条例(原案)」の住民説明会が開催される。
- 7月 ●「佐井村むらづくり基本条例」が施行される。
- 10月 ●佐井中学校創立60周年式典。
- 12月 ●交通死亡事故ゼロ10年を達成、県知事表彰及び県警本部長感謝状を授与。

平成20年

- 1月 ●大佐井地区で火災発生。住宅1棟全焼。
- 3月 ●佐井診療所(内科)が大間病院に統合され、無医村になる。
●佐井村連合青年団及び佐井青年団解散。
●大間病院コミュニティバス運行開始。
- 4月 ●古佐井地区の一部で下水道供用開始。
●特別養護老人ホームゆうなぎの里が開設される。
- 6月 ●「佐井村におけるブロードバンド化促進のための調査研究会」が設置される。
- 8月 ●「佐井村自治創造プラン」が策定される。
●各地区で「市町村合併住民懇談会」が開催される。
- 10月 ●「なんでも鑑定団INさい」公開収録。
- 11月 ●佐井～青森間を結ぶ、大型高速旅客船「ほくと」に代わり「ポーラスター」が就航。
●外部ヒアリング(事業仕分け)が実施される。
- 12月 ●交通死亡事故ゼロ11年を達成、県知事より表彰を受ける。

平成23年

- 佐井村と青森公立大学との地域連携調印式。
- 3月 ●福浦地区に新へき地診療所完成。
●佐井村消防センター落成式及び旧佐井消防庁舎閉庁式。

平成21年

- 4月 ●太田健一氏、村長無競争当選。(3選)
●子どもの医療費給付事業で出生から12歳まで無料化される。
- 6月 ●県道佐井川内線(糠森～矢越間)が供用開始。
- 12月 ●交通死亡事故ゼロ12年を達成、県知事表彰及び県警本部長感謝状を授与。
●消防センターで新型消防車両(広報車、第2分団ポンプ車、水槽車)の入魂式が行われる。
●はまなす農業協同組合佐井駐在所が閉鎖。
- 1月 ●戸籍電算システム(謄抄本の発行等)が稼働。
- 3月 ●佐井村新保育所落成式及び旧保育所閉所式。
●新電算システム(佐井村総合行政情報システム等)が一部で稼働。
- 4月 ●指定管理者として佐井村新保育所がオープン。
- 8月 ●佐井村初の個展「ふるさと三人展」が開催される。
●交通安全全国キャラバン隊が8年ぶりに来村。
- 9月 ●女優・市原悦子さんが佐井村観光PR番組撮影に来村。
- 10月 ●管内全域で光ファイバ網が整備される。
- 11月 ●NTT東日本による光サービスの提供が開始。
●「佐井村むらづくりシンポジウム」を開催。
●子ども会育成連合会40周年記念式典。
●県道薬研佐井線で交通事故死発生。交通事故死ゼロ4,715日でストップ。
●青い森信用金庫(旧下北信用金庫)佐井支店が廃止される。
- 12月 ●アルサス創立20周年記念イベント。
- 3月 ●東日本大震災が発生。管内全域で停電となったが被害なし。
●「佐井村第4次長期総合計画」が策定される。
●全世帯、学校、公共施設等にIP告知端末機及び小型画像情報端末(サイボード)を設置。
●福浦少年消防クラブが、優良少年消防クラブとして消防庁長官から表彰を受ける。
- 4月 ●旧保育所をリニューアルした佐井村児童交流センター(愛称:ぼぼらす)がスタート。
- 9月 ●教育長に樋口秀視氏就任。
- 2月 ●1日大雪により佐井村雪対策連絡会議を設置。
●「“あおい環”シンポジウム」を開催。
●(“あおい環”シンボルマークを制定)

平成24年



防災訓練(平成16年)



市町村合併説明会(平成14年)



ゲートボール大会(平成14年)



南茅部町・佐井村姉妹町村交流会(平成16年)

1 文化財

北前船や先人たちがもたらした
美しく貴重な文化財。
剛毅な精神を、学び続けたい。



02

02

村有形文化財(書籍)

蓑虫山人の書

三上家所蔵。明治12年の春、蓑虫山人が三上家に逗留した折の作品といわれています。絵は、庶民芸術として、独特な境地をひらいているところに特徴があり、秋田県や岐阜県、愛知県などでも文化財の取り扱いを受けています。

01

県重要文化財

木彫十一面観音立像

円空上人作木彫十一面観音立像は長福寺所蔵。江戸時代の作品で総高181cm、像高145cm、一木三体の内の一体と伝えられています。ナタとノミで刻んだものらしく、迫力ある荒削りの仏像には、強い生命力が感じられます。



01

03

村有形文化財(絵画)

蓑虫山人絵

長福寺所蔵。蓑虫山人は、全国各地を野宿しながら写生し、巡遊して歩きました。神社仏閣を訪ね画筆を磨きながら、明治12年佐井村を訪れ、同寺に逗留したといわれています。寒山拾得像の他、和歌の浦、屏風ヶ浦の襖絵が残されています。



03



04

蝦夷錦

04

江戸時代、中国の江南地方で作られた絹織物が、北京を経て国龍江(アムール川)を下り、サハリンから北海道に入り、アイヌの人々を通じて佐井にもたらされました。特に、官服仕立ての「蝦夷錦」は珍重され、その他、袷袢、仏壇に使用する打敷、袋物などがあります。

村有形文化財(歴史資料)

05

廻船御客帳

松谷家所蔵。表紙に文化9年正月吉日とあり、見出しは諸国御客方書留となっています。別名「帆印帳」とも云われ、佐井湊に諸国の廻船がいかにも多く出入りしていたかが、この帆印帳でわかります。村にとって貴重な資料です。



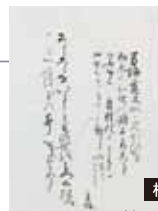
05

07

村有形文化財(書籍)

菅江真澄直筆

洪田家(三葉)、岩清水家(一葉)所蔵。菅江真澄は、2回にわたり佐井村を訪れています。寛政4年(1792年)10月、同5年3月、4月、洪田家、岩清水家に滞在した折の歌です。両家の庭木の様子が表現されています。



村有形文化財(歴史資料)

06

鉄扇

慶応4年(明治元年)2月、津軽藩士一戸竜太郎が原田沖で難破、漂着し救助された礼として、原田、加藤家に残したものです。この鉄扇は加藤家の家宝として同家で保存してきましたが、昭和43年1月に郷土史の資料として村に寄贈されました。

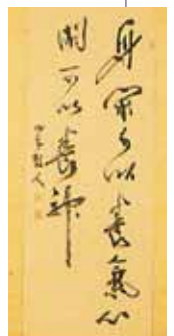


06

村有形文化財(書籍)

勝海舟の書

三上家所蔵。三上剛太郎氏の父(子恵)が医学を学んだ東京赤坂の医師金沢良齋の代診で勝海舟家を訪れたことがあり、その縁で金沢医師を通じて、明治十八年の夏に同書が贈られたと伝えられています。



08

3 物産品

豊富な資源と技がもたらす
純真無垢な特産品。
佐井の風土を、お土産に……。



ヒバ製品

青森県産のヒバから抽出した天然成分の「ヒバ油」を使用。各種入浴用品をはじめ、ひば線香、お香、ダニつかずなど、おみやげやご贈答品としても好評です。



01

01 がんかけ岩

昔から神の岩山として祀られ、地元の人々に深く信仰されてきました。寛政4年(1792年)菅江真澄が旅の途中この地を通ったとき、稲荷の社、八幡の社が並んでいました。その鳥居に桜の木の枝を鍵として打ち掛け、願をかけたことから、鍵掛岩または願掛岩と呼ばれています。

観光 2

眺めるほどに、
人々を魅了する大自然の神秘。
旅情をそそる数々の絶景が
ここにある。

03 国指定天然記念物 縫道石山

標高600メートル余でありながら高山性の植物が多い山です。独立した岩峰で、気象条件は厳しく山頂は極めてせまい。縫道石の特殊植物群落は、国の天然記念物として指定され、なかでもオオウラヒダイワタケは、世界最北限の生息地として有名です。



03

02 ケビンハウス

景勝地がんかけ公園一角の高台に、緑豊かな自然に囲まれたログ風ケビンハウスが5棟建てられています。充実した設備の各棟からは、津軽半島、北海道渡島半島を見渡すことができ、沈む夕日は旅情を感じさせてくれます。



02

05



05 鳴海要吉文学碑

明治40年春、佐井小学校に赴任した要吉は、わずか半年の短い間に詠んだ歌が120首もあり、「羈旅集」と題してまとめています。「あそこにもみちはあるのだ頭垂れひとりゆく猿がなく浜」と刻まれた文学碑ががんかけ岩をバックに建てられています。



04

04 フォーレストパーク

フォーレストパーク内には、総ひば造りの森林体験館をはじめ、広々とした環境で思う存分プレイできるテニスコートとゲートボール場があります。緑豊かな大自然の中、森林浴やサイクリングでリフレッシュ！

大町桂月歌碑
大正十一年九月、佐井村を訪れた大町桂月は、仏ヶ浦を目の前にしてあまりの異様な光景と自然造形に驚嘆し、「神のわざ鬼の手づくり佛宇陀人の世ならぬ処なりけり」とよみました。仏ヶ浦にこの歌を刻んだ歌碑が建てられています。

08

07



スイミングハウス

海を臨む高台に、スイミングハウスがあります。津軽海峡に沈む夕陽をながめ、壮大な景観を満喫することができます。

06 森林体験館

館内では、木工体験教室、裂織り体験教室があり、ユニークで楽しいイベントが開催されます。やさしい森の香りに包まれてみませんか？



06



海産物

津軽海峡の荒波は、さまざまな海の幸をもたらす素晴らしい海です。佐井村には新鮮な海の幸でつくったおいしい加工品がたくさんあります。



裂織り

青森県に古くから伝わる、伝統的な織物「裂織り」は、古布を裂いて横糸に使う織物。独特の素材の風合いが喜ばれています。